

ポイント

- ◆ 売上高対前年同期比は-52.7ポイントと18.1ポイント回復
(過去10年では2番目の回復幅)
- ◆ 売上見通し(来期対前年同期)は小幅ながら2期連続改善(増加・不変が+11.4)
- ◆ 採算性は-53.6ポイントと厳しいが、2期連続改善(+12.0)
- ◆ 2期連続「需要の停滞」が経営上の課題のトップ(全業種)だが改善傾向もみられる
- ◆ GoToトラベル停止が与える影響を懸念

○厳しい結果にも明るい兆しが見える

今回の調査は、前回調査に続いて新型コロナウイルスの感染拡大とそれにとまなう景気への厳しい影響が見られるものの、回復の兆しを感じることができる結果であった。

回復の萌芽と期待したい一つは、過去10年では2番目の改善(-52.7ポイント 前期から+18.1)となった売上高対前年同期比(全産業)である。個別にみると建設業は悪化(前期から-12.5)しているため手放しでは喜べないが、他の業種では大きな改善が見られることから、その一つと見なせないだろうか。(表①・グラフ①)

次に売上見通し(来期対前年同期比)をあげたい。増加・不変とする企業が増加(38.9 前期から+11.4)しており、これは2期連続である。(グラフ④)

3番目は、採算性の改善(-53.6 前期から+12.0)で、売上高対前年同期比の結果と同じく建設業以外は改善しており、その幅も比較的大きい。(表②・グラフ⑤)

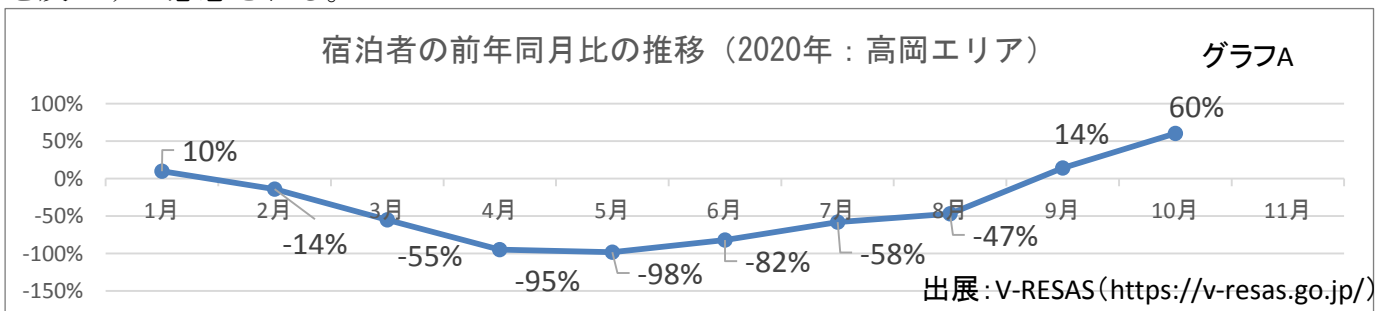
最後は、経営の課題を問う設問の結果である。全業種で「需要の停滞」がトップであることは前回と変わらないが、全ての業種でその割合が低下(建設:-8.5、製造:-1.9、卸売:-2.7、小売:-2.7、サービス:-0.9)しており、事業者自身が売り上げについては回復傾向に向かいつつあることを感じ取っていることのあらわれであろう。(表⑤)

○GoTo停止

本調査の報告をまとめたところに政府が12月28日から2021年1月11日までの間のGoToトラベルキャンペーンの利用を全国で一斉に停止することを発表した。宿泊、移動サービス、土産品製造・販売、飲食など、地域においてもこの知らせに落胆した企業は数多くあるだろう。実際、今回の調査への回答も、企業によってはGoToの実施を見込んだものと思われるが、数値化できる情報がないため、その影響は考慮しない。

参考として、V-RESASから旅行会社店頭、予約サイト、外国語予約サイトなどから匿名加工されたデータを基にした宿泊者の前年同月比の推移を下記に示す。グラフからは、GoToキャンペーンが開始して以降、徐々に増加に向かい、イートの開始により本格的に増加に転じた動きが見て取れる。(グラフA)

この度のGoToトラベル停止が、回復への期待を持つ企業、そしてこの地域にどのような影響を及ぼすか懸念される。



○感染対策の再確認を

現在、富山県では新型コロナウイルス対策の段階を3段階の内のstage1としている。市内では昨日、今冬初めて町並みが白一色になった。インフルエンザの流行のピークとされている時期を間近に控え、今一度、感染対策が十分であるか再確認が必要だろう。

本調査で見られる回復の芽を摘むような事態に陥らないことを願いたい。

[地域経済動向調査概要]

調査月 令和2年10月～令和2年12月 (基準日12月1日)

対 象 高岡市内事業所 340社

回答数 168社 (回収率 49.4%)

回答業種内訳及び構成比

	建設	製造	卸売	小売	サービス	全体
回答数	16社	78社	30社	18社	26社	168社
%	9.5%	46.4%	17.9%	10.7%	15.5%	100.0%

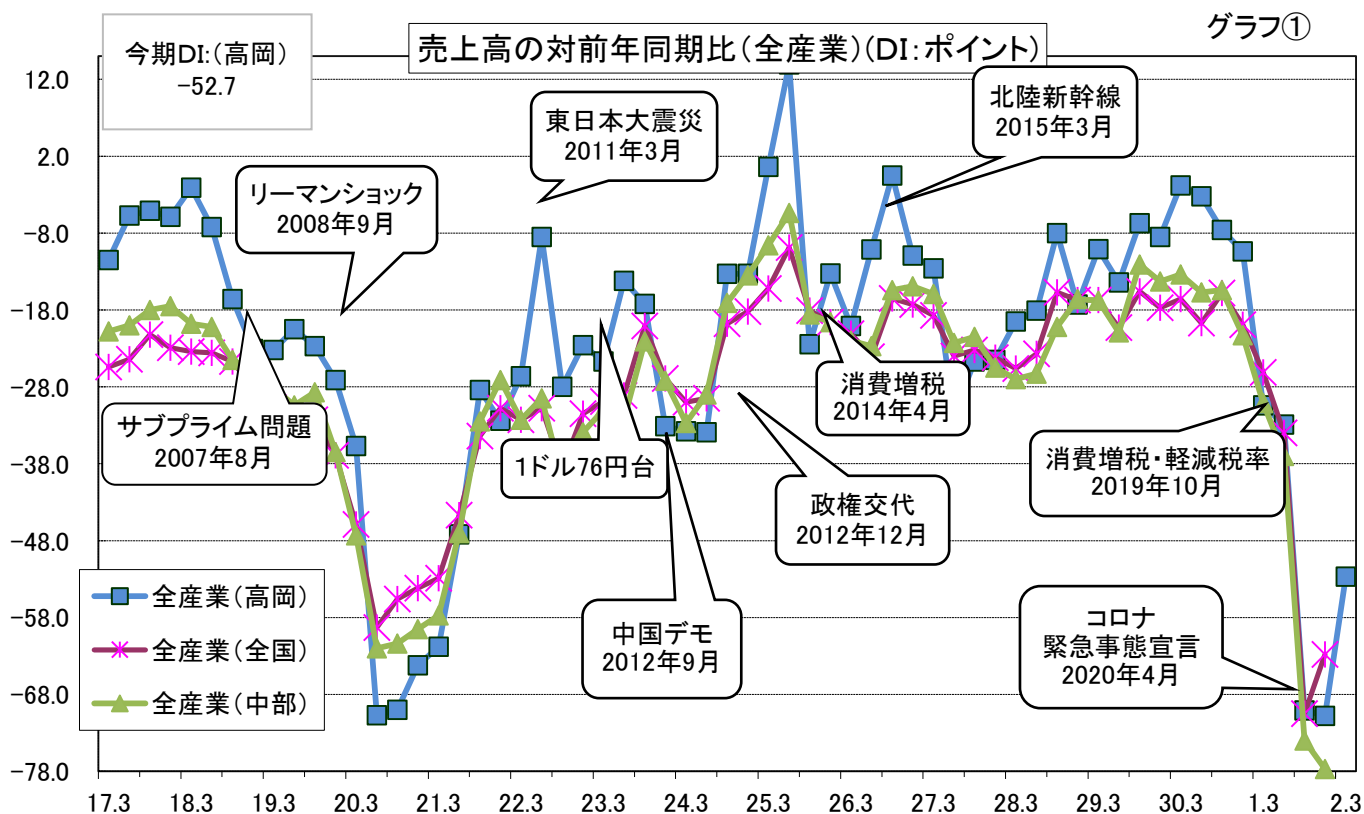
■1.売上高の対前年同期比

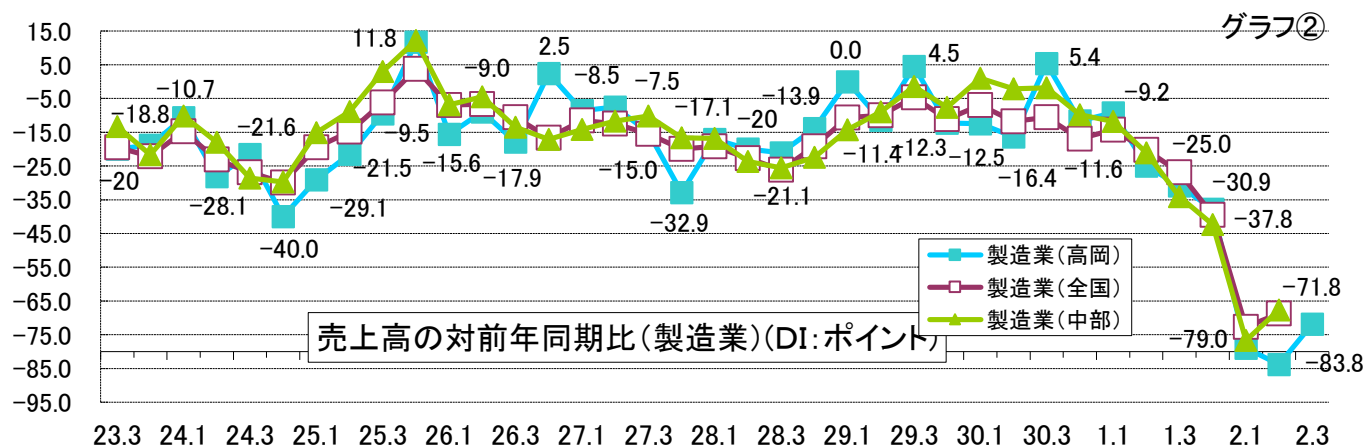
(%) (ポイント)

※全国、中部DIは前回調査分

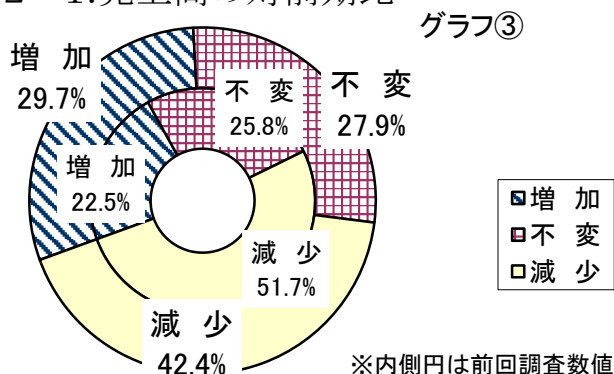
表①

	増 加	不 変	減 少	DI	前回DI	変化	全国DI
建設業	12.5	43.8	43.8	-31.3	-18.8	-12.5	-41.2
総合・土木	10.0	50.0	40.0	-30.0	-30.0	0.0	-
建築・職別工事	16.7	33.3	50.0	-33.3	0.0	-33.3	-
製造業	7.7	12.8	79.5	-71.8	-83.8	12.0	-72.7
銅器・漆器	15.4	7.7	76.9	-61.5	-92.9	31.4	-
アルミ・機械・化学・電気	6.7	13.3	80.0	-73.3	-82.9	9.6	-
食品・繊維・紙・他	0.0	16.7	83.3	-83.3	-82.4	-0.9	-
卸売業	20.0	10.0	66.7	-46.7	-85.2	38.5	-72.7
銅器・漆器	33.3	0.0	66.7	-33.3	-100.0	66.7	-
その他	13.0	13.0	69.6	-56.5	-81.0	24.5	-
小売業	22.2	22.2	55.6	-33.3	-66.7	33.4	-73.9
食品・衣料・雑貨	16.7	16.7	66.7	-50.0	-71.4	21.4	-
電化製品・文化用品・他	25.0	25.0	50.0	-25.0	-63.6	38.6	-
サービス業	23.1	26.9	50.0	-26.9	-42.9	16.0	-77.5
全産業	14.4	18.6	67.1	-52.7	-70.8	18.1	-70.5

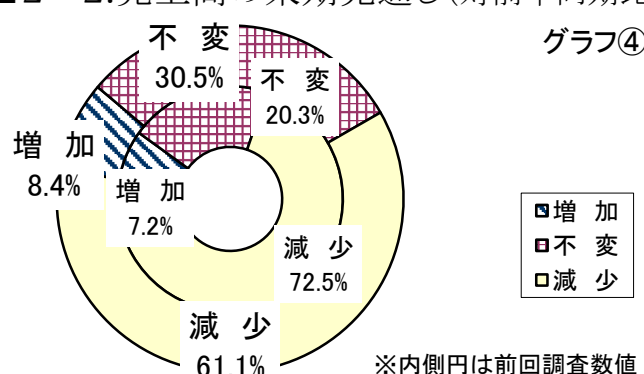




■ 2-1. 売上高の対前期比



■ 2-2. 売上高の来期見通し(対前年同期比)

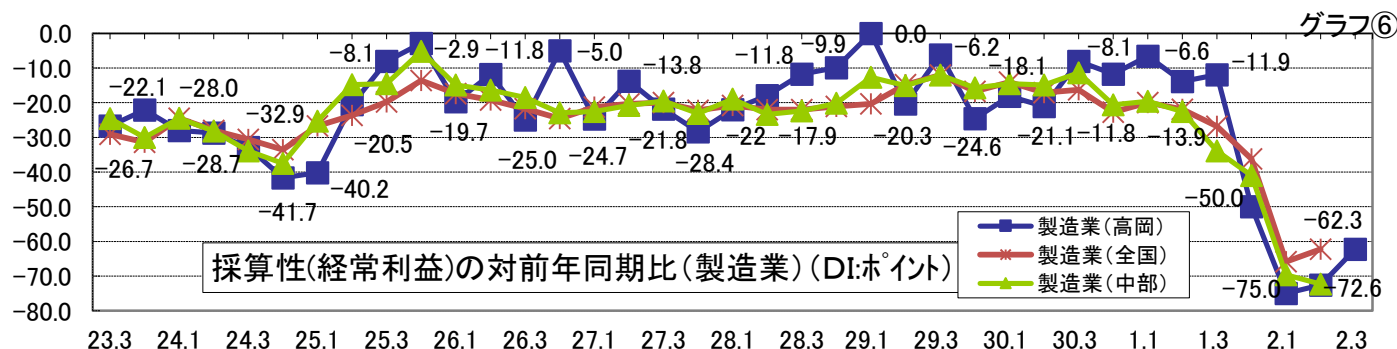
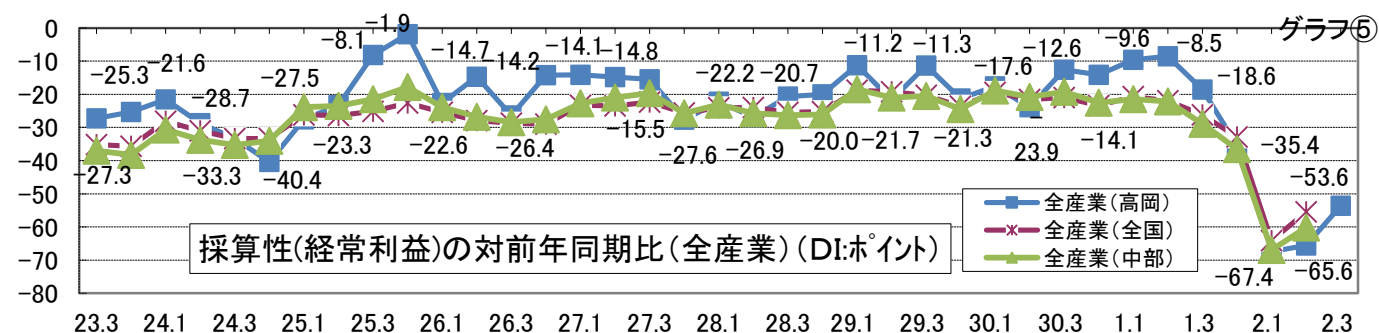


■ 3. 採算性(経常利益)の対前年同期比(%) (ポイント)

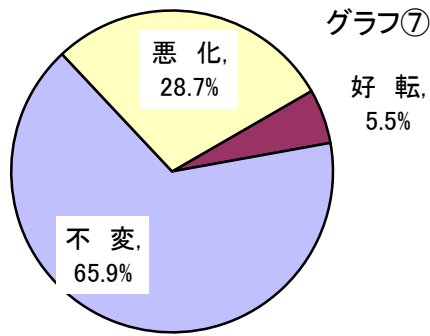
※全国DIは前回調査分

		好転	不変	悪化	DI	前回DI	変化	全国DI
業種	建設業	12.5	43.8	43.8	-31.3	-18.8	-12.5	-37.2
	製造業	6.5	24.7	68.8	-62.3	-72.6	10.3	-65.9
	卸売業	10.3	27.6	62.1	-51.7	-80.8	29.1	-66.3
	小売業	5.6	38.9	55.6	-50.0	-72.2	22.2	-67.3
	サービス業	0.0	53.8	46.2	-46.2	-52.4	6.2	-70.7
	全産業	6.6	33.1	60.2	-53.6	-65.6	12.0	-64.1

表②



■ 4. 資金繰り(前年同期比)

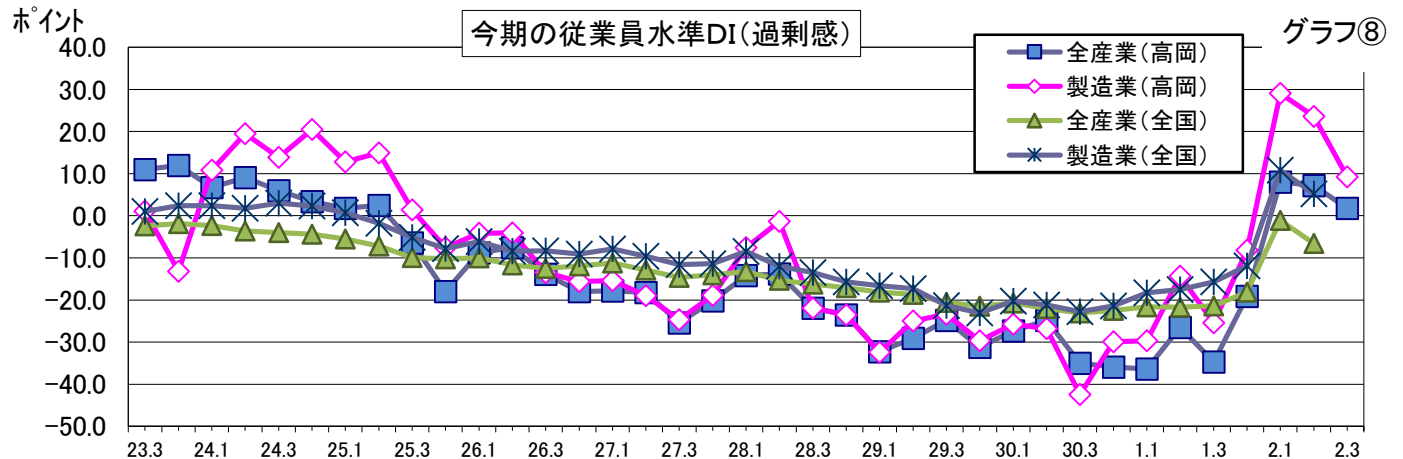


資金繰り(前年同期比)の推移

	好転	悪化	DI
2.3	5.5%	28.7%	-23.2
2.2	2.0%	29.4%	-27.5
2.1	3.4%	38.6%	-35.2
1.4	5.8%	19.5%	-13.6
1.3	4.2%	9.8%	-5.6
1.2	6.6%	8.6%	-2.0
1.1	7.8%	8.5%	-0.7
30.4	6.4%	12.2%	-5.8
30.3	6.7%	11.7%	-4.9

表③

■ 5. 今期の従業員水準(今期の過剰感)



従業員水準(過剰感)の推移

表④ (ポイント)

	H30.4	R1.1	R1.2	R1.3	R1.4	R2.1	R2.2	R2.3
建設業	-73.7	-76.5	-86.7	-70.6	-55.6	-61.1	-31.3	-37.5
製造業	-29.9	-29.7	-14.3	-25.4	-8.2	29.1	23.6	9.2
卸売業	-30.8	-25.0	-3.6	-29.6	4.2	16.1	0.0	20.0
小売業	-27.8	-29.4	-40.0	-21.4	-17.6	4.8	5.6	-11.8
サービス業	-34.6	-45.5	-43.5	-50.0	-48.0	-16.0	-10.0	-7.7
全産業	-35.9	-36.4	-26.5	-34.7	-19.1	8.0	7.2	1.8

※数字が小さいほど不足感が強い

■ 6. 直面している経営上の問題(各業種の回答上位)

建設業	①民間需要の停滞	19.0%
	①従業員の確保難	19.0%
	②下請業者の確保難	11.9%
製造業	①需要の停滞	23.5%
	②生産設備の不足・老朽化	12.8%
	③従業員の確保難	11.2%
卸売業	①需要の停滞	26.5%
	②従業員の確保難	11.8%
	③人件費以外の経費の増加	10.3%
小売業	①需要の停滞	20.4%
	②消費者ニーズの変化への対応	16.7%
	③販売単価の低下・上昇難	11.1%
サービス業	①需要の停滞	22.4%
	②人件費の増加	18.4%
	③従業員の確保難	11.6%

複数回答

表⑤